

平成24年度教育委員会事務事業評価(平成23年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

		整理番号	6
事務事業の名称	博物館管理運営事業	担当部課	教育委員会 生涯学習部 博物館
		電話番号	04 - 2955 - 3804
実施期間	平成 3 年度 ~		
総合振興計画における位置づけ	5章	人を育み文化を創造するまちをめざして	実施根拠 博物館法及び関係令並びに狭山市立博物館条例及び狭山市立博物館管理規則
	1節	生涯学習の振興	
	施策42	生涯学習の促進	
個別計画の名称			
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 法定受託事務+自治事務		
事業開始の背景等	市政施行35周年記念事業の一つとして、「入間川と入間路-その自然と風土」をテーマに狭山市の原始から現代までを展示することにより、市民の郷土狭山への理解を深め、「新たな郷土狭山」の創造を図るための社会教育施設として、平成3年度に開館した。		

2 事務事業の目的・内容

目的	社会教育施設として、郷土狭山の歴史・文化・自然等を広く紹介し、資料の展示や講座・体験学習を開催することにより、市民の学習活動を支援するとともに、郷土愛の育成、地域で活動できる人材の育成、地域コミュニティの活性化などに資することを目的とする。		
対象	一般		
活動内容	常設展示では、展示テーマ「入間川と入間路」を中心に、狭山の自然・地質・考古・歴史・民俗・産業・美術などを網羅的に展示し、展示物に新たに子ども用のキャプションや一部に音響を設置したほか、触れることのできる体験コーナーを設けた。また、展示物に関する朗読会を開催した。教育普及では、古文書読解講座講座(初級・中級)、歴史講座(中世・近世)を実施するとともに、体験学習として、茶席、甲冑の着付け、鏡餅づくり、お姫様になろうなどを実施した。		
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価)	継続	
環境配慮	常設展示室の照明などは、入館者を確認してから点灯するなど、無駄な電力の経費削減に努めている。		
実施形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()		

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	目標値の根拠・考え方
(活動状況指標)	体験学習や講座の件数(企画展開催を除く)	目標値	件	13	13	13	12	過去5年間の実績値をもとに設定
		実績値		12	12	10		
		達成率		92.3%	92.3%	76.9%		
(成果指標)	入館者数(企画展開催時を除く)	目標値	人	7,986	8,808	8,983	8,767	過去5年間の実績値をもとに設定
		実績値		11,680	7,781	5,826		
		達成率		146.3%	88.3%	64.9%		

4 事業費

区分		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	
経費	直接費	予算額	千円	52,794	52,119	53,740	46,294
		決算額	千円	51,539	50,375	52,612	
	財源内訳	国県支出金	千円				
		その他特定財源	千円	3,199	1,309	1,607	
		一般財源	千円	48,340	49,066	51,005	
	人件費	従事職員数	人	3.91	3.91	3.83	
		人件費(従事職員数×平均給与)	千円	35,952	35,155	34,497	
事業費計(直接費決算額+人件費)		千円	87,491	85,530	87,109		
効率性指標	指標名	年間入館者数-企画展開催時入館者数	人	11,680	7,781	5,826	※1単位当たりの経費
	単位コスト	入館者1人当たりの経費	円	7,491	10,992	14,951	

5 事務事業の評価

◆第一次評価 (担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由	
個別評価	必要性	4	社会教育施設である博物館として、常設展示のほか、資料の収集・研究、各種講座や体験学習等を通して、市民の郷土愛を育むとともに、将来を担う狭山の子もたちに郷土の歴史や自然、伝統行事などに興味と関心を持たせることにより、地域で活動できる人材を育てていく。また、市内の学校やボランティア等と連携した事業を展開することにより、地域コミュニティの活性化を促進する。	
		4		
	有効性	3		常設展示、古文書読解講座、歴史講座等により郷土狭山の歴史文化を学ぶ機会や、茶席、甲冑の着付け、鏡餅づくり等の体験学習を通して伝統文化・行事に関する学習機会の提供が図れた。
		3		
効率性	4	入館料、受講料や参加費など、適正な受益者負担により実施している。		
	4			
< 5段階評価 >			5 : 極めて高い 4 : 高い 3 : 普通 2 : 低い 1 : かなり低い	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了				
今後の方向性	資料の収集、展示並びに講座・体験学習を継続して実施し、市民の学習活動を支援していくとともに、施設の管理運営の効率化を図っていく。また、開館以来21年を経過しているため、引き続き常設展示室の改修について調査研究を進める。			

6 その他(学識経験者の意見等)

博物館の教育施設としての可能性は非常に大きいと考えられるが、企画展を除いた入館者数は減少傾向にある。結果として、単位コストが高くなったようである。適切なPRによる入館者増が望まれる。また、地域の博物館として、連携・協力先と新たな事業の創造が求められる。例えば、学校ボランティアの育成に関わること、地域で活動できる人材養成に関わることなど、博物館が必要とされる学習機会は多いと考えられる。さらに、レクチャーコンサートのような取り組みが既に行われているが、入館者増のためには(職員の負担増につながるが)、博物館でのイベント開催、地域企業などとの連携、「出前」のような取り組みを増やし、入館者増につなげることも必要と思われる。